

# ドイツ農協の牛乳・乳製品輸出額の増加とその要因

研究員 小田志保

## 1 はじめに

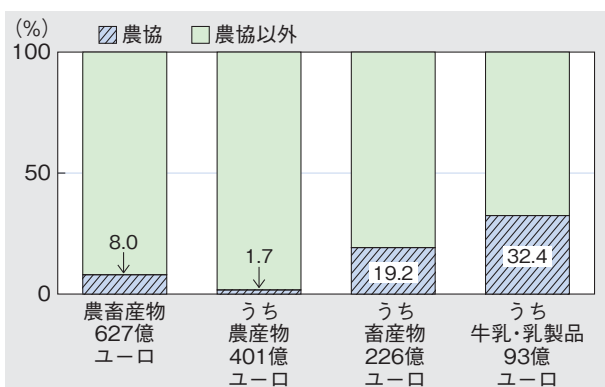
2013年における農畜産物輸出額(農畜産物を由来とする食品を含む)が世界第3位のドイツでは、牛乳・乳製品が輸出額の1割強を占める。近年、ドイツの牛乳・乳製品の輸出額は著しく増加しており、農協の輸出額も同様に増加傾向にある。

そこで、ドイツにおける農協の農畜産物輸出の概況と、牛乳・乳製品の輸出額増加の主な要因について述べる。

## 2 ドイツ農協の農畜産物の輸出概況

13年のドイツの農畜産物輸出額は626.9億ユーロであり、このうち農協の輸出額は50.1億ユーロと、8.0%を占めている(第1図)。農協の農畜産物輸出額を品物別にみると、畜産物が43.3億ユーロ(86.6%)と大宗であるため、ドイツの輸出額に占める農協のシェアは、畜産物全体では19.2%と高く、特に牛乳・乳製品

第1図 ドイツの農畜産物輸出額に占める農協の割合(2013年)



資料 DRV『Statistischer Bericht』、ドイツ連邦食糧・農業・消費者保護省『Deutscher Agraraussenhandel 2013』  
(注) 農産物は、農産物および農産物を由来とする食品、畜産物は畜産物および畜産物を由来とする食品。また、金額は、それぞれの項目についてのドイツ全体の輸出額。

に限定すると、同割合は32.4%に達する。

農協の畜産物輸出額の内訳は、牛乳・乳製品が29.9億ユーロで輸出額の59.8%、食肉・食肉製品が11.8億ユーロで23.6%を占めている(第1表)。なお、13年の農協の農畜産物の輸出額は、4年前の09年に比べ1.7倍に増加しているが、増加額の51.7%を牛乳・乳製品が占めている。

## 3 牛乳・乳製品の輸出額増加の要因

このように、農協の農畜産物輸出の中心は牛乳・乳製品であり、近年の農協の輸出額増加についても、その寄与が大きい。これはドイツ全体の牛乳・乳製品輸出の動向と連動したものであり、その増加要因を整理すると、以下の3点になる。

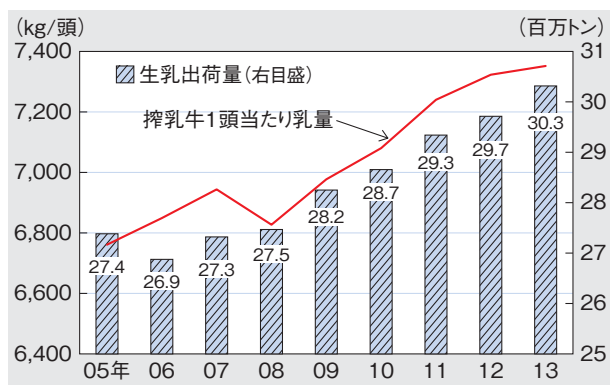
第1に、生乳の生産割当制度(クォータ制度)の廃止である。08年のEU共通農業政策改革により、生乳生産割当制度が15年3月末までに段階的に廃止されることになった。09年4月以降、イタリアを除くEU加盟国の生乳割当枠は年2%ずつ拡大している。これを受け、ドイツの酪農家は、濃厚飼料の給与を増やす等

第1表 ドイツ農協の品目別農畜産物輸出額(2009～2013年)

| (単位 億ユーロ、%) |      |      |      |      |      |       |
|-------------|------|------|------|------|------|-------|
|             | 09年  | 10   | 11   | 12   | 13   | 割合    |
| 合計          | 30.3 | 34.9 | 41.8 | 41.2 | 50.1 | 100.0 |
| 農産物         | 4.8  | 5.1  | 5.9  | 6.3  | 6.7  | 13.4  |
| 畜産物         | 25.6 | 29.8 | 35.9 | 35.0 | 43.3 | 86.6  |
| うち牛乳・乳製品    | 19.8 | 23.3 | 27.8 | 26.9 | 29.9 | 59.8  |
| 食肉・食肉製品     | 4.8  | 5.3  | 6.1  | 6.9  | 11.8 | 23.6  |

資料 DRV『Statistischer Bericht』各年次

第2図 個体乳量と生乳出荷量



資料 Milchindustrie-Verband e.V.

(注) 13年は速報値。

増産にシフトし、この結果、13年の生乳出荷量は、08年に比べ10.4%増加した(第2図)。

第2に、新興国をはじめとして、世界的に牛乳・乳製品の需要が拡大したことである。特に中国では、食品公害事件が相次ぎ、高所得者・中間層において安全性の高い輸入食品へのニーズが高まった。牛乳・乳製品は生産・加工・流通過程で高度な衛生管理を必要とするため、安全性が重視される。このため、衛生面で評価が高いドイツ製品の優位性が高まった。

第3に、ユーロ安により、ドイツ製品の国際的な価格競争力が高まったことである。08年のリーマンショックと10年の欧州債務危機はユーロ安を招いた。ユーロの為替相場は、08年平均の1ユーロ1.465米ドルから、12年平均の1ユーロ1.285米ドルへと12.3%減価している(総務省「世界の統計2014」)。

以上のように、輸出環境が好転したことで、農協は輸出の取組みを強化した。例えば、12年の販売額が国内10位の乳業者である農協ミルヒユニオン・ホッホアイフェル(Milch-Union Hocheifel)は、組合員の生乳生産量が増加したことを受けて、12年に、総工費6,000万ユーロをかけて、輸出向けの高品質の粉ミルク加工施設を新設した。さらに同時期に、同農協は中国へロングライフ牛乳(長期保存牛乳)の輸出も開始した。なお、同農協は国際競争力の向上のため、12年10月に、<sup>(注1)</sup>多国籍農協のアルラフーズと合併している。

#### 4 おわりに

このように足元で急激に拡大したドイツ農協の牛乳・乳製品輸出であるが、今後の動向は不透明なものである。例えば、欧州委員会では、今後のEU全体の牛乳・乳製品の輸出量の増加率は多くの品目で鈍化すると予測している(欧州委員会(2013))<sup>(注2)</sup>。これは主に新興国・中欧諸国の需要鈍化によるものである。ドイツは、牛乳・乳製品の主要な輸出先をロシアや中国といった新興国・中欧諸国に依存しており、影響も大きいと思われる。これらの点を踏まえると、今後のドイツ農協の牛乳・乳製品の輸出動向については、EU農政だけでなく、国際的な牛乳・乳製品の需要にも留意していく必要がある。

#### <参考文献>

- ・ 欧州委員会(2013)、Prospects for Agricultural Markets and Income in the EU 2013-2023、欧州委員会ウェブサイト  
[http://ec.europa.eu/agriculture/markets-and-prices/medium-term-outlook/2013/fullrep\\_en.pdf](http://ec.europa.eu/agriculture/markets-and-prices/medium-term-outlook/2013/fullrep_en.pdf)
- ・ 宅間淳(2014)「EUの乳製品生産・輸出動向」独立行政法人農畜産業振興機構ウェブサイト  
<https://www.alic.go.jp/content/000108600.pdf>

(おだ しほ)

(注1) アルラフーズのドイツでの事業は、ドイツ国内の協同組合法が適用され、その輸出額は、第1表の農協の牛乳・乳製品の輸出に計上されている。

(注2) 欧州委員会は、10～12年の平均輸出量は、00～02年平均輸出量に比べ、ホエイで6%強、チーズで6%弱、全脂粉乳で3%強の増加となったが、2023年の予想輸出量は、10～12年の平均輸出量対比で、ホエイで4%弱、チーズで3%弱、全脂粉乳で2%強の増加にとどまるとしている。